

事務事業名		栃木県博物館協会参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	4	豊かな心を育む教育・文化づくり				担当	担当部	教育総務部	担当課	吉澤記念美術館
	政策	2	生涯にわたり学びのあるまちづくり				組織	担当係		担当課長名	金原 隆徳
	施策	2	歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	4	文化・芸術活動の促進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14965	一般	10	4	7	栃木県博物館協会参画事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立美術館条例					
						市単独事業・国県補助事業		市単独事業			
						任意的事業・義務的事業		任意的事業			
						実施方法		直営			
						事業分類		参画事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
栃木県博物館協会に、会員として負担金を支出している。また、協会主催の会議や研修会に参加することにより、他美術館に関する情報収集や意見交換を行っている。  栃木県博物館協会とは、県内の博物館等及びその関係者の連絡調整を図り、博物館事業の進展に寄与することを目的として、県内約100団体を会員として構成している。			(市の活動) 栃木県博物館協会に負担金の支出  (栃木県博物館協会の活動) 総会・講演会・学芸員研修会等の開催 機関誌の発行 会員への各種情報提供 特にH26は、栃木県内「M割」(ミュージアム割引)の参加館拡充に向けて調整した。							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			会議出席日数	回	2	4	2	2	2	
			会議等出席者数(のべ人数)	人	2	4	2	2	2	
			機関誌収集数	部	1	1	1	1	1	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
① 市職員(この会議の範囲で関係する職員)			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
(対象団体) 栃木県博物館協会			対象職員数	人	4	4	4	4	4	
目的										
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
① 美術館・博物館の県内の傾向について類似施設の状況や最新情報を得る。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
② 教育普及活動や展示方法についての技術の向上を図る。			他館の状況や最新情報を得られていると感じている対象職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
			会議参画が有意義であると感じている職員の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
活動の発表が積極的に行える。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			文化・芸術活動団体の登録数	団体	132	125	140	142	142	

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	5	5	5	5	5	
	事業費計(A)	千円	5	5	5	5	5	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金	5	負担金	5	負担金	5
	人件費	人	4	4	4	4	4	
のべ業務時間	時間	6	6	6	6	6		
人件費計(B)	千円	23	24	24	24	24		
トータルコスト(A)+(B)	千円	28	29	29	29	29		

事務事業名	栃木県博物館協会参画事業	担当部	教育総務部	担当課	吉澤記念美術館	担当係	
-------	--------------	-----	-------	-----	---------	-----	--

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	時代の変化に応じた他館の状況や最新情報が得られること、又、展示や教育普及活動等当館の事業運営に活用し、館の充実を図ることができるため、平成15年度から参画。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	美術館や博物館の運営に指定管理者制度や独立行政法人制度の導入が可能となり、運営形態は多様化してきている。 様々な美術や文化・芸術に関する情報をインターネット等を利用して活用する人が増加している。また、海外からの観光客の増加にむけた、多言語での日本文化の発信や対応が求められている。 国(文化庁)は東京オリンピックに向け、世界に誇るべき「文化芸術立国」の実現～文化を起爆剤とする地域と日本の再生～として実施予算を要望しているが、文化芸術にかかる予算は増加されず、国家予算の0.1%で推移している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 情報交換の場や機会を利用し、他の美術館・博物館から情報を得て当館の展示や事業運営に反映させることで、市民の文化・芸術活動の促進に貢献できる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 美術館経営等の芸術文化事業は、収益性を追求する企業理念にそぐわない。美術館活動の振興は自治体の担うべき事業で、他館との相互連携を図る手段として必要である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 機関誌や報告書により他館からの最新情報が得られ、それらの情報を当館の運営に反映させることができる。講演会・研修会に参加することで、調査研究や、展示会の発想を得られることがある。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案 県外視察研修等については、予算上の問題もあり参加は難しいが、県内開催の会議への参加や、機関誌などから得られる情報から、県内各官との情報交換を行ったり、今後の美術館動向等の参考とすることができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 会費の負担のみであり、事業費の削減の余地はない。人件費についても同様である。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない	理由・改善案 美術館の運営を充実させるための行政内部の事業であり、受益者負担を求めない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 加盟団体から脱退すれば事業は終了となるが、団体に参画することで他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会や手段を得ているので、当館運営に役立つので、休止・廃止はできない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			